

技術課情報

単子なのにフリーマーチン？

らくのうマザーズ 技術課 梶山 清久

フリーマーチンという言葉は誰もが聞いたことがあり、知っている言葉だと思います。オスとメスの組み合わせで双子が生まれた場合、九〇%以上の確率でメスは繁殖できない体になってしまいます。その繁殖ができないメス牛をフリーマーチンといいます。なぜフリーマーチンになるかというところよくわかっていませんが、妊娠初期（受精卵が交じり合い、オス胎仔の血液成分がメス胎仔の方にいつてしまうため、メスの生殖器ができないといわれています。繁殖に用いられず肥育にしかならないため、酪農家さんにとって大きな痛手となります。

ではオスとメスという異性双子でなければフリーマーチンにならないのでしょうか？というところでもありません。なぜなら妊娠初期には双子だったのに、途中でオスだけがおなかの中で死んでしまい、メスだけが生ま



写真①



写真②

れてきた場合もフリーマーチンになる可能性があるからです。左の写真①を見てください。これは以前ある農場で見かけたため写真を撮らせていただきました。分娩して三日目の牛ですが、後産がかかっているため呼ばれました。よく見ると後産の先に毛玉のようなものが見えます。それをアップで撮ったのが左下の写真②です。この毛玉みたいなものにも名前がついていて、「無形無心体」とい

ます。これが何かといえば、子宮の中で双子だった片割れが死んでしまい、一部吸収されずにこのような形で残ったものです。すなわちこの母親は最初双子を妊娠していたけど、途中で片方が死んでしまい、一頭だけ生んだということになります。今回生まれた子牛はオスだったため特に問題はありませんでした。しかし、途中で死んで無形無心体になった片割れがオスだったかメスだったかが毛玉を見るだ

けではわかりません。そのため生まれた子牛がメスだった場合、死んでしまつて毛玉になった片方がオスだった可能性があるため、そのメス牛はフリーマーチンになる可能性があります。そのため生まれてきたメスを検査する必要があります。

みなさんお産がすんで、さらにメスが生まれてよかったよかつたとホッとしていて後産にはあまり気にもとめないと思いますが、もしかしたら後産に無形無心体がついていて、後々生まれたメスがいくら待っても発情が来ないということがあるかもしれません。たまには後産が出たかどうかだけではなく毛玉がついてないか確認してみてもいいでしょうか。